



第254回

# 林明夫の 歩きながら考えよ

21世紀の地球社会

## これからの日本で求められる仕事と能力とは ——これからの高校を考える

- ⑪ 創薬・先端医療
- ⑫ ヒュージョンエネルギー
- ⑬ マテリアル(重要鉱物・部素材)
- ⑭ 港湾ロジスティクス
- ⑮ 防衛産業
- ⑯ 情報通信
- ⑰ 海洋

——日本が目指す姿は何ですか。

——これからの日本で求められる仕事とは何ですか。

政府の「日本成長戦略会議」は、次の17の仕事が日本の成長に欠かせないと、2026年7月に発表しました。

- ① AI・半導体
- ② 造船
- ③ 量子
- ④ 合成生物学・バイオ
- ⑤ 航空・宇宙
- ⑥ デジタル・サイバーセキュリティ
- ⑦ コンテンツ
- ⑧ フードテック
- ⑨ 資源・エネルギー安全保障・GX
- ⑩ 防災・国土強靱化

——17の成長分野に共通する人材育成の課題は何ですか。

- ① 各産業を支える理工・デジタル、現場人材の不足
- ② 高度化する技術や新しい知識・技能への対応
- ③ 新しい価値を生み出すイノベーション人材、技術とビジネスをつなぐ人材、専門知識だけでなく、経営判断力も併せ持つ人材の確保

——2040年に向けて、新しい高校はどのようなイメージですか。

- ① 専門高校(工業高校や農業高校、商業高校など)の機能強化・高度化
- ② モノづくりから流通まで一体的な学びの実践
- ③ 「高校版企業寄付講座」等の実践や、それを前提とした進学就職機会の確保
- ④ アドバンスト・エッセンシャルワーカーの育成
- ⑤ 人口が減っても、専門高校の定員は現在と同じ
- ⑥ 普通科改革を通じた高校の特色化、魅力化
- ⑦ 学ぶ機会・アクセスの確保

- ② 高度実験環境を核とする理数探求拠点の整備
- ③ 文理の双方の素養を有する人材の育成
- ④ 普通科高校の文系・理系の生徒の割合は同数とする
- ⑤ 地理的アクセス・多様な学びの確保
- ⑥ 学校間連携・遠隔授業
- ⑦ 学校と、地域の関係機関の連携・協働の強化による学習環境の提供
- ⑧ 他の種類の学校との連携の充実
- ⑨ 学校の枠を超えて多様な人々と協働
- ⑩ 高校卒業段階の進路未決定者の割合の半減
- ⑪ 校内オーブンラウンジを活用、放課後の「サードプレイス(居場所)」での学び促進
- ⑫ 高専(高等専門学校)強化
- ⑬ 高専(高専の時代です)へいよいよ、高専の時代です
- ⑭ 高専の「量的拡大」
- ⑮ 公私立高専の新設促進(都立高専、県立高専、私立高専の新設を促進)
- ⑯ 高専教育の領域拡大(農業、コンテンツ)
- ⑰ 学生の多様性確保(女性)
- ⑱ 高専志願者増に向けた対応
- ⑲ 少子化傾向においても高専学生数を増加させる

——2040年に向け、これらの高校はどうなりますか。

- (1) 学びの在り方の転換
- ① リアルとデジタルの良さを組み合わせつつ、「好き」を育み、「得意」を伸ばす機会を確保し、生徒の実態を踏まえた柔軟

⑦高専教育の質的向上  
⑧高専卒業者の「国際通用性確保」  
⑨高専生の海外留学の促進

——まとめていこうぞいこうい  
とですか。

- (1)「これからの日本、これからの世界の変化は」  
①生成AI等の技術革新の急速な進展  
②予測を上回る人口減少・少子高齢化の進行  
③社会経済構造の激しい変容  
④我が国社会の多様化  
⑤国際情勢の著しい不安定化  
(2)これからの我が国を担う子供たちは、このような激しい変化がとどまることのない時代を生きるようになります。AI時代を迎えるにあたって、主体的・自律的に生きる力を、自己責任・自助努力で身に付けてまいります。
- (3)高校生になっても大切にしたいいただきたいのは、  
①「自覚をもつて学ぶこと」  
②「効果の上がる学習方法(学習の3段階理論)を身に着けること」  
③「長時間自己学習能力を身に着けること」

④「辞書・新聞・読書・図書館に慣れ親しみ、読解力を身に着けること」  
⑤「積小為大」「小さいことを積み重ね、大きな志(高い志)を成し遂げること」

——学習塾・予備校・私立学校の幹部の先生方にお伝えしたいことは何ですか。

- (1)2030年度からの新学習指導要領の改訂作業が大詰め近づき、文部科学省は、政府の経済財政諮問会議の要請を受け、「新経済成長17分野」に対応する人材戦略を「新学習指導要領に組み入れる」大実験を行い始めました。  
(2)その全貌が順次公開され始めました。素晴らしい内容ばかりです。  
(3)文科省や政府のウェブサイトをしっかりと分析し、対応策を策定いたしましょう。

——最後に一言どうぞ。

「読書の秋」になりましたので、今月は、「読書教育」をご提案いたします。

○学習塾、予備校、私立学校の先生ほど、自由自在に学ぶことができ、自由自在に教えること

ができる職業はありません。そうであるならば、得意分野を極め、苦手分野も多少意識しながら、子どもたちの将来のために、「先生としての本格的な読書」をおすすめします。

○歴史を教える先生方や、歴史好きの先生方には、横山光輝の「歴史漫画シリーズ」が、おすすめです。「殷周伝説(潮出版)」、「伊達政宗」(講談社漫画文庫)など、中国史、日本史に登場する人物に焦点を当てた「歴史漫画」は、各時代の理解を促進。これまでも、世界史好き、日本史好きを、多数輩出する原動力となってきました。横山光輝や手塚治虫の「歴史漫画の名作」をぜひ手に取り、ご熟読ください。

○歴史を教える先生方におすすめは、「中公文庫、世界の歴史、全16巻」と、「中央公論、日本の歴史、全巻」の二つのシリーズです。著者は、超一流の先生ばかりですので、大学や大学院の授業をお聞きするつもりで、一気に読もうとせず、行きつ戻りつ、ご自分の血や肉となるくらい、一語一語、かみしめながら、お読みください。

○ご自分の好きな歴史上の

人物が執筆した代表的な著作・作品は、日本語訳で十分ですから、ゆつくり、ノートを取りながらお読みになることをおすすめします。代表作は、「深い理解」つまり「学んだことを自分のことばでいえる(表現・説明できる)こと」に挑戦。アダムスミスなら、岩波文庫などで、「道徳感情論」「法学講義」をお読みになつてから「諸国民の富」をノートを取りながら読む。その内容を授業で紹介すると、大学教育に接続した素晴らしい教育となります。

○ちなみに、「岩波文庫」や「講談社学術文庫」など「学術系の文庫」の多くは、日本や諸外国の大学や大学院、それ以上のレベルの内容です。問題意識の高い中高生に、本の内容を紹介してください。書店や、図書館などで作品に触れた生徒は、潜在能力の一部となり、未来への扉を開きます。

○私は、十数年来、「公益財団法人文字活字文化推進機構」の評議員を拝命しています。機構の活動の一環として「ビブリオバトル(推薦本の紹介コンテスト)」があります。

①自分の好きな本を5分間(小

学生は2分間)何も見ないで紹介。2分間、質疑応答。

②何人か紹介し終えた後、全員で質疑応答。

③最後に、(自分が紹介した本を除き)その日に紹介された中で一番読みたくなった本は何か、参加者が一人一票で、投票。その日のチャンピオンを決めます。全国の学校図書館、公立図書館、高校や大学の一部で大流行。東京都墨田区では、全公立小中学校で行い、大好評。

○学習塾・予備校・私立学校でも、この「ビブリオバトル」に挑戦、「読書教育」をなさることをおすすめいたします。

○「文字活字文化推進機構」では、「朗読者の養成講座」も超人気です。学習塾・予備校・私立学校で、独自の「朗読者養成の仕組みづくり」を行い、「読書教育の担い手育成」にご挑戦を。

(2026年9月1日記)